

## 2018 年度版 成人式ヘア&メイク&着付部門 要項

### (1) 課題の内容

- 成人式用の中振袖の着付(六通または全通の袋帯使用)及びセット、メイクを行う。帯結びは自由とする。
- 成人式にふさわしい着付・セット・メイクをすること

### (2) 競技の方法

- セット・メイクの競技、ボディ補正、長襦袢着付までの競技、振袖着付・帯結びの競技に分けて行う。
- 審査はヘア&メイク&着付のトータルで採点される。
- モデルは人体とし、プロ・アマは問わない。
- セットの選手・メイクの選手・着付の選手の 3 人までの参加も可  
(競技中の 2 人以上の同時施術不可)  
(ヘア・メイク時は 1 づつしか競技スペースに入れない)  
(着付室には着付の選手のみしか入れない)
- 選手の服装は上衣は白のブラウス、下は黒のスカート・スラックス・キュロットのいずれかとする。シンプルで清潔な服装で。(肌の露出の多いもの、透けるもの、ヒラヒラするもの、または膝上の上ものは禁止する。帽子、スカーフ、ショール等も禁止する)

### (3) 競技時間

競技会場でメイク、セットの作業を 60 分、控室での補正・長襦袢着付までの作業 15 分、競技会場で振袖着付及び帯結び作業、衣装敷をはずし、草履をはかせて、ポーズつけまでの 20 分の合計 95 分。

メイク・セット開始時には、立ったまま「お願い致します」、着付時には、衣装敷の左後ろに正座したまま「お願い致します」と挨拶してから、競技に入る。

### (4) 競技用具の準備 (選手が準備するもの)

- ① 中振袖(重ね衿または比翼つき)
- ② 袋帯(六通または全通)
- ③ 草履
- ④ 長襦袢
- ⑤ 帯締め(平か丸)、帯あげ

- ⑥ ヘア用具一式
- ⑦ 化粧品一式
- ⑧ 衣裳敷き(120cm x 180cm 以内)
- ⑨ 衣装箱(通常の衣装箱及びそれに準ずる箱。  
プラスチックの衣裳ケースや手さげ型の衣裳ケースは除く  
※必ず持参し、縦 44 cm × 横 64 cm × 高さ 25 cm 以内とする)
- ⑩ 小物付属品  
足袋・肌襦袢、裾よけ(もしくはワンピース型の肌襦袢)・腰紐(5 本～6 本)・帯枕・仮ひも(変り結び用)・ボディ補正用具・前帯板と後ろ帯板(ゴム付きは不可)・クリップ類・伊達巻き 2 本(長襦袢及び着物用)
- ⑪ ガウン(競技会場でメイク・セットをする時に必ず着用する。色は白またはベージュ系に限る・ガウンの下は肌襦袢・足袋は着用のこと。)
- ⑫ ガウンの上にはクロスやケープはせず、必ず前、後ろに白のタオルをかける。(バスローブは禁止)
- ⑬ 椅子に座った時に膝が見える長さのガウンの方は、ひざ掛けを用意してくる(ひざ掛けは白で無地に限る)
- ⑭ 重ね衿(単色に限る)

(5) 着付け競技に関する注意事項

- ① 衿とじは、事前にやってくること。
- ② ものさし、メジャーの使用は認めない
- ③ 助手の使用は一切認めない。
- ④ クリップを留めるための、ポーチや腰用のエプロンの使用は認めるが、タイム前にそれらにクリップを留めることは認めない。(スタート後はOK)
- ⑤ ブラジャーの使用は認めない。和装用のブラジャーは使用可。(補正付は禁止)
- ⑥ 胸をつぶすための補正やガーゼは使用して良い。
- ⑦ 極端に完成されたボディ補正道具の使用は認めない。
- ⑧ 補正を止めるための、テープや包帯止めは使用可。
- ⑨ ボディ補正のパットやタオルはとじ付けてあってはいけない。
- ⑩ ひも付きのおしりパットも不可。
- ⑪ 帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
- ⑫ モデルが、ひも、伊達巻、帯などを結ぶことは認めない。(ただし、ひも、帯あげなどを、腕にかけたり、手に持つことは差し支えない。)

- ⑬ モデルが、袖、衿元、裾などを修正すること、衿合わせを押さえることは認めない。(但し、たもとを持ち上げることは差し支えない)
- ⑭ 帯に形付けをしたり、帯結びの課程につながる過度のたたみ方は認めない。
- ⑮ 袖の板紙使用は、撮影時は良いが、競技の際の使用は認めない。
- ⑯ 帯飾りは禁止。
- ⑰ 2色の飾り衿は禁止。単色に限る。
- ⑱ 帯あげは出来上がりが「入」の字型とする。帯締めは中心で結ぶこと。
- ⑲ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ⑳ 草履を履いて審査を行い、審査中のモデルは、両手を軽く広げ、おはしよりが隠れないポーズをとる。(衣装敷をはずし、草履を履かせて、ポーズ付けまでがタイムとする)

#### (6) 衣裳類の禁止事項

- 1 中振袖
  - ①身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
  - ②おはしより紙は使用禁止とする。
  - ③重衿は着物の衿に付けること。
- 2 長襦袢
  - ①衿は自由とするが、半衿は必ず縫い付ける。
  - ②後衿の力布は使ってはいけない。
  - ③特殊加工をほどこした衿や刺繍の入った衿は認めない。
- 3 帯
  - ①ひだの折り癖がつけられているものは認めない。
- 4 小物
  - ①コーリンベルトの使用は認めない。
  - ②帯飾りは禁止とする。

#### (7) ヘア、メイクに関する禁止事項

- ① モデルがセットのブラシ・ピンなどを選手に渡すこと、メイクのブラシ・筆などを選手に渡すことは禁止とする。
- ② モデル自身による化粧施術は、競技中はもとより、控え室でも禁止する。
- ③ アイテープ及び、つけまつ毛を事前につけてくること、競技中にモデルがつけることを禁止する。
- ④ まつ毛エクステは禁止とする。
- ⑤ ヘアピース・髪飾りの使用は良い。ただし、ヘアピースの個数は1個とし、頭部の1/3以上を覆ってはならない。

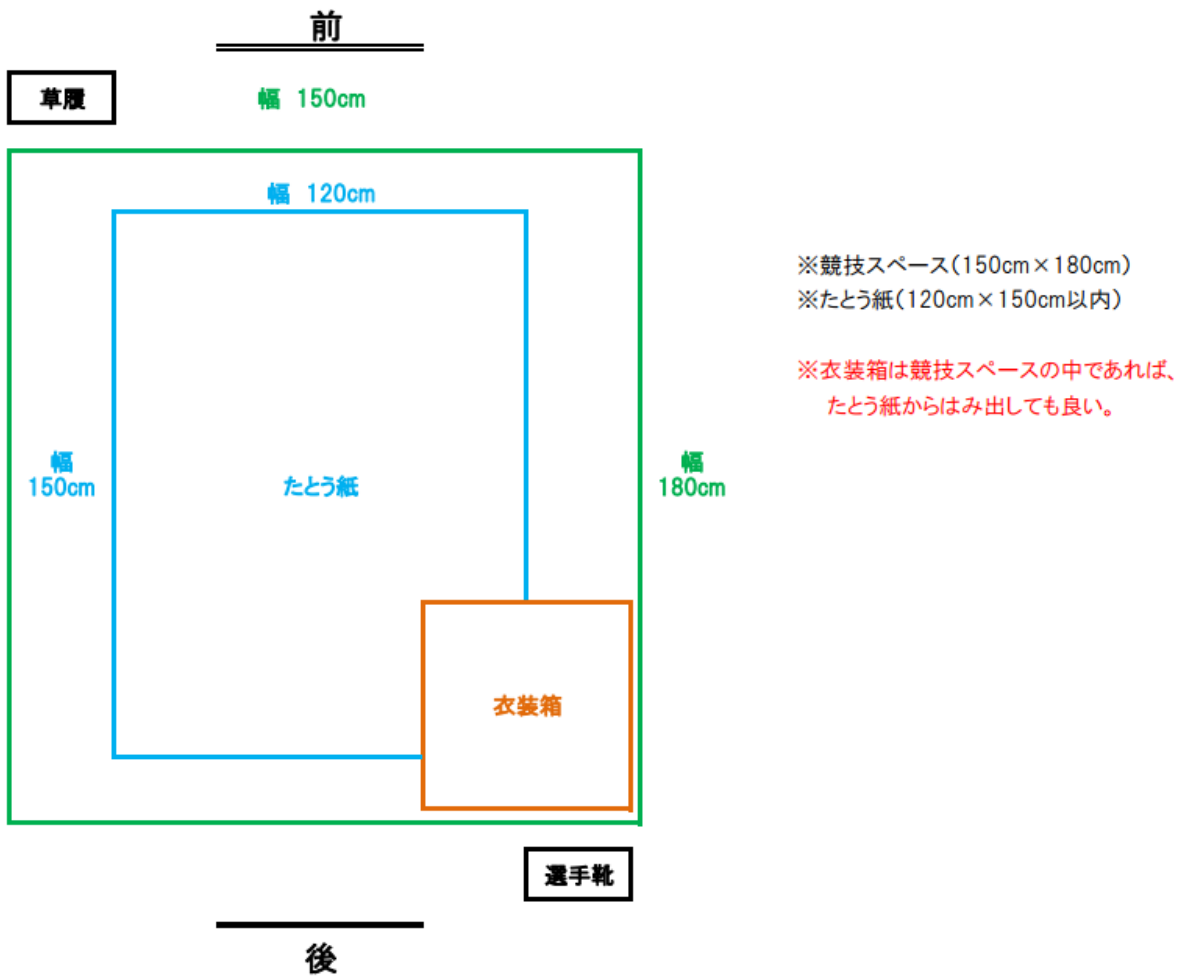
⑥ まげや、おだんご、編み込みなど、あらかじめ形を作ってくることを禁止する)

⑦ 形の作られたすき毛、かつらやヘアピースの使用は認めない。

(8) その他の注意事項

- ① 競技中に選手同士またはモデル、観客と会話等をしてはならない。またアドバイスも受けてはならない。
- ② 競技中道具の貸し借りをしてはならない。
- ③ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視員の指示に従わない等の行為は禁止とする。
- ④ 競技中に2人以上選手が、モデルに施術または触れることは禁止とする。
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、タブレットを競技会場への持込みは禁止とする。控室競技中も持ち物から出すことも禁止とする。
- ⑥ タイムを計るためのタイマー、時計等は使用禁止。携帯電話、スマートフォン、タブレットは禁止とする。
- ⑦ 競技中に選手が時計、ブレスレット、指輪は身につけてはいけない。
- ⑧ 控室にはモデル及び出場者本人以外の立入りを禁止する。
- ⑨ 補正及びメイクに使うタオルも白に限る。
- ⑩ 控え室、競技会場での電源は使用出来ない。コンセント不要の電気器具については使用を認める。(コードレスアイロン、充電式のコテなどはOK)
- ⑪ アミカラー等は事前に巻いて控室に入場し、競技開始までに外しておく。
- ⑫ メイクは下地クリームもしくはファンデーションから開始する。化粧水・乳液は競技前につけておいてOKとする。
- ⑬ 競技用具は、大会当日の朝、競技が始まる前に、監視委員が厳重に点検を行う。
- ⑭ 忘れものの申告は監視委員を通すこと。

【競技会場 たとう紙、衣装箱、選手靴、モデル草履の配置図】



【ポーズングの図】

